

2008.06.24：経済環境委員会

「第77号議案公有水面埋立てに係る意見に関する件について」

池田友信委員

それではお伺いしますが、今回の議案については、名称もちょっと感じさせる名称ですが、仙台塩釜港仙台港区内という公有水面の埋め立てに係る県からの要請に対して、異議ないということについて承認をしていただきたいということなんでしょうけど、私も議員になってもう30年くらいになりますが、この件については20年前くらいいろいろ質疑をして取り組んだ経過がある中で、思い出しながらちょっと質問をさせていただきますが、まず一つはこの議案がなぜ経済局から提案されたか、その理由をちょっとお聞きしたいと思います。

国際プロモーション課長

今回の議案を提案した経済局の国際プロモーション課でございますが、港湾の担当部署というのは非常に変遷がございまして、今まで担当局としましては企画局、59年には開発局、平成4年には都市整備局、平成8年には企画局と、平成16年から経済局が担当しておりまして、港湾に係る企画調査、連絡調整及び港湾の利用促進に関することを担当しているところでございます。

御存知のとおり、宮城県が港湾管理者として港湾の計画策定、整備を行っておるところでございまして、仙台市においても港の利用促進をいかに図っていくかというところに重点を置いて宮城県と連携してポートセールスを行っているという観点から経済局が担当しているところでございまして、そういう趣旨から今回の提案担当課になったところでございます。

池田友信委員

現在は港湾にかかわる部分の部局としては経済局と企画市民局がかかわる部分があると思うんですが、その守備範囲というか、その業務の役割というのはどんな形で整理されているんですか。

国際プロモーション課長

先ほど説明しましたように、経済局国際プロモーション課は、港湾に係る企画連絡調整及び利用促進に関することを担当しているところでございまして、これ以外に港湾に関係する部署としましては、企画市民局が港湾の管理者に関すること、都市整備局が現在策定中であります仙台港長期構想委員会幹事会の委員として参加しているところでございます。

池田友信委員

しからばお伺いしますが、やはり今回の埋め立てに対する承認をするということの中には、仙台市としての担当部局として将来の計画とか整備状況の方向性とかというものがおありなのかどうか、ちょっとお伺いいたします。

国際プロモーション課長

整備につきましては、宮城県が港湾管理者になっているところが基本的に宮城県の長期構想計画そして港湾計画、宮城県が中心になって取りまとめているところでございます。

仙台市におきましてはそれらの計画の場に、もしくは幹事会の委員としまして参画しまして、そういう場で意見を述べて、計画に対して積極的に発言しているところでございまして、仙台市においての港湾の計画というのは特にございません。

池田友信委員

港湾関係は確かに県が管理者であって、そういう部分でのハード面の主たる企画者であると思いますが、仙台港、仙台市有地である仙台港については仙台港に入港された船の税金は、県でなくて仙台市に入るわけですね。特別とん譲与税という税金が入るわけでありますが、これは現在、年間として大体幾らくらい入っていますか。

国際プロモーション課長

大体の数字で申しわけございませんけれども、おおむね9000万円程度収入が入っていると伺っております。

池田友信委員

私が20年前いろいろ調べた時点で、ピーク時には1億円を記録した時期もあります。税金が仙台市に要するにしょぼ代として納税されるわけです。したがってそういう意味では港湾整備については県かもしれないけど、いかに仙台港にお客さんが来て、要するに入船して、荷揚げをしてもらって、そして税金をこれからもよろしく御協力くださいと。こういうことを考えるならば、仙台市は仙台市として県と別に独自に仙台港に対する利用促進計画とか、そういうものを持つべきじゃないかということで、実は以前私提案しまして、年に1回くらいは市長が入港された船に行ってお出向いてメッセージを託して、またひとつ御利用ください、何か港湾に対して不備な点がありませんか、あるいは御意見がありませんか、そういうことをやるべきじゃないかと。実施した結果、実は

あそこに入船すると電波のハレーションが起きるとか、あるいは入ってきて全然夜は真っ暗で、どういうふうに行けば仙台市に行くのか全然わかりませんと。いろんな福利厚生にしても、いやあ、政令都市の中ではこんな港湾もあるんですかと思うくらい大変不備な状況だということで、実は港湾の税関もこちらの方に移動してもらったり、そんなことも過去の中ではありました。それは仙台市長が行って港湾関係のそういう意見を県の方に反映したものだということに思いますが、先ほど言われた担当者の部局が変わることによって、そういったものがずんずんずんずん形骸化されるというか、引き継がれていったのかどうかわかりませんが、薄れていくというか、県が企画者で管理者で、県の出されたことに対して市の方で同意をするかどうかと、こういう形の受身になっているのが現状じゃないかと思うんですが、例えばその仙台市独自でやっていた年に1回の入船の部分に対する仙台市の主張なりメッセージなり、そういうことで訪問したり、対応したりということは現在もやられておられるんですか。

国際プロモーション課長

入船に関して宮城県と一緒に受け入れのセレモニー等はやっておりますけれども、市長が特に行っているということはございません。

池田友信委員

そういう部分です、やっぱり引き継がれていかない部分がありますが、この辺についても港湾関係のこういった部分の受けだけじゃなくて、やっぱり整備あるいは計画と、仙台独自として仙台港のあるべき姿をもう少しやっぱり独自に考えていく必要があるのではないかというのが1点と、これからの中で、これは埋め立てをしてやるに当たってのですね、やっぱりこれは経済局だけじゃなくて、先ほど言われた企画市民局とか都市整備局との連携と、どんな形で進めていくのかということが私はこれが大きなことだと思うんです。埋め立てを許可したあとの仙台市としての部局の調整、この辺をどんな形で進めていくのか、その辺お伺いしたいと思います。

経済局長

2点につきまして、お答え申し上げます。

まず、仙台市独自の計画ということでございますが、県の方で港湾計画を具体的に作成をされながら、港湾整備に10年程度のスパンの計画の中で取り組んで来ておられるわけございまして、その中に仙台市が意見を述べるチャンスというのもまずございますので、その中で市としての考えを申し述べながら対

応して行くのが、まず基本かと思いますが、今までの御意見にもございましたように、利用促進という意味で仙台市が相当かかわっていかねばいけないという状況もございますので、そういった関連のような整備ですか、そういった対応につきましては、仙台市としても対応しなくてはいけないという面が出てこようかと思っておりますので、その辺はまず私どもだけではなくて関連する局とも連携しながら対応していかなくてはならないというふうに思っております。

それから2点目の関係局の連携でございますが、そういう意味で今まで、私の記憶で申し上げても、どちらかというところをめぐり諸問題について、その時々課題にどう対応するかということで、空港も含めたような形になりますけれども、企画局が所管をしたりとか、都市整備局が所管をしたりというようなことで来まして、今日はどちらかというところと広域的な港の利用促進という面から、現在経済局が所管ということになっておろうかと思っております。そういう中で今までのこの港湾担当の所管の経過を踏まえましたときに、関係局では意思の疎通を図ることにつきましては、おおむね了解をされてはおりますけれども、今回こういった議案をお願いするに当たりまして、なお今後とも連携はきちっと深めてまいりたいと思っております。

池田友信委員

港湾のそういった利用促進も含めてですね、今回はコンテナターミナル、あるいは埠頭用の道路用地、護岸、こういう形でこの埋め立てをするわけですが、ぜひそういうことを考えますと、背後地との関係がどういうふうにするんだということを考えた場合に、背後地整備ということについても、やはり仙台市のみならず、県との背後地整備を促進するような、そういう取り組みが必要だと思っております。現在の中では東部高速道路の仙台港の背後地のための立体交差、インターチェンジ用地が県として所有しておきながら、仙台市の場合は以前の議会にもかかりましたけど、用地買収でこれは国の方からも補助が出てですね、きちんと買収して買い取りしましたけれども、県の用地はまだ全然なっていないんですね。したがってこれインターチェンジができていないんですよ。そういうこととの結節のことを考えていくと、背後地との整備の問題も含めて、今後担当部局と調整をしながら、ぜひひとつこの機会に埋め立てを返事だけ出すんでなくて、やっぱり背後地を含めた仙台港のあり方ということに対するノウハウの、計画も含めてですね、やはり県の方に促進してほしいというふうなことも含めて、あわせてやらないと、生きた形にならないというふうに思いますし、最後にもう一つ、そういったことで、仙台港を仙台塩釜港、これを仙台港という形に直すような位置づけを、これあくまで塩釜港の区域の仙台港になっているんですね。そういう部分ではまだまだ位置づけが低い、仙台港として

国際港としてのあり方に対しては、そういうことも含めてぜひ位置づけが高くなるような整備も含めた形で関係部局と連携して、県の方にぜひ押し込んでいただきたいというようなことを最後に局長の確認をして終わりたいと思います。

経済局長

港湾の名称につきましては、もともと歴史的な経過の中で、もともと塩釜港というような位置づけの中でまいりまして、そういう中で仙台港のウエートが格段に伸びてきているというようなことで、関係市の理解もいただきながらですね、何とか仙台港という位置づけを港湾の中にも入れていただいて、今日に至っているという経過ではございます。

そういうことで今後長期計画を考える中での仙台港の具体的な位置づけということについては、今回のセントラル自動車なり東京エレクトロンなりの企業誘致の中で、仙台港の重みというのは今後ますます伸びていくという認識でおります。

そういう中で私ども経済局だけでなく、背後地の問題になりますと都市整備局ということになります。常に情報も共有しながらですね、港湾面において県の方にもきちっとお話をしながら、とりわけ今のこの時期というのは非常にいい機会にもなってきておりますので、そうした点をきちっと間違えないようにですね、対応してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。